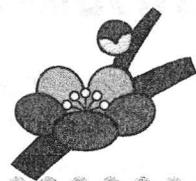


茅ヶ崎市立鶴が台中学校

鶴が

若き心
集まるところ

1月



令和3年1月 校長 伊藤 盛人

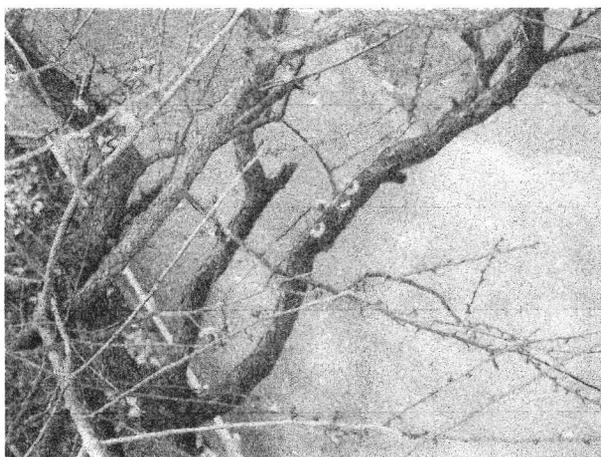
謹賀新年

本年もよろしく申し上げます

○さあ新年のスタートです 心も身体もリフレッシュして行こう

昨年は新型コロナウイルス感染防止対策に追われる毎日の連続でした。暮れになって感染者の数は「第三の波」の影響で日々増加する一方でした。新年を迎えても心配される日々が続いていますが、少しずつ新型コロナウイルスの対処の方法が明らかになって、学校生活が本来の姿に戻りつつあることも事実です。

本日1月6日（水）で12日間の冬休みが終了しました。皆さん少しはリフレッシュすることができましたか？いよいよ学校生活が始まります。特に3年生は、1月13日（水）中学校生活最後の期末試験を終えると、いよいよ、受検（験）本番の日が近づいてまいります。3年生は、ほっとする間もなく最後のラストスパートを迎えます。しっかりと自分の目標突破に向けて走り抜いてください。



○新1年生をどうぞよろしく 正月から新年度の準備です

学校では3年生の進路の準備と並行して、今春4月から本校に入学する新1年生（146名1月4日現在予定）のための準備も始まりました。

新年度4月に入学する新1年生の期待に応えられるよう生徒会本部役員をはじめ全校生徒一丸となって準備をしています。説明会の日程は次の通りです。

新入生保護者説明会 1月12日（火）

中学校説明会 1月15日（金）

しっかり新1年生を迎え、台中のよき伝統を伝えられるよう協力をお願いします。

佐川光晴さんからの手紙（続編）です。

佐川さんは、文芸誌「すばる」1月号のインタビューの中でこのように話されていました。

鶴が台中学校のことが書かれています。先月号に引き続き、紹介します。

「二月の末に、母校の茅ヶ崎市立鶴が台中学校で講演をしました。新型コロナウイルスで卒業式ができなくなってしまったせいで、集まれた最後の機会だったそうです。この状況はいろいろなところに負荷がかかっていますね。うちでも大学生の長男が戻ってきて、高校生の次男と共にオンラインで授業を受け、教員の妻まで一時的に在宅勤務になった。主夫でもある僕は昼間の時間が自由に使えなくなり、六月はじめにパンクして、一人でホテルに泊まってリフレッシュしました。適応力はある方だけけれど、かなりストレスが溜まっていたようです。それはともかく、講演の中で質疑応答の時間を設けたら、すぐに手が挙がって「中学時代の目標は何でしたか？」と質問されました。僕は「これまで目標というものを持ったことがない」と即答したんです。そうしたら生徒たちが気持ちよく笑った。校長先生が「私たちは生徒に常に目標を持たなければならないと指導してしまうので」とおっしゃるので、「先生たちの邪魔をしてしまいましたね」と応じたら、「目標を立てて達成することだけが人生ではありませんから、佐川さんがあんなふうに言うだけで生徒たちは安心したと思います」と理解を示してくれました。いい校長先生です。僕は何がどうなったら自分が満足するかわからないままやってきたので、反射的に正直に答えたのがよかったようです」

子どもたちが幼い頃に描いたカラフルな絵や、両親、四人の妹弟たちとその家族合計二十三人が勢揃いした旅行の写真などが飾られている自宅のリビングで佐川さんは語る。

2000年に「生活の設計」で新潮社新人賞を受賞してから作家生活二十年を迎えた。野間文芸新人賞受賞の「縮んだ愛」や、芥川賞候補になった「銀色の翼」、坪田譲治文学賞受賞の「おれのおばさん」など多くの作品は、自身の体験、そして家族との密接な関係がもとになっている。「振り返ってみても、父も母もああしなさいとか、こんな人になりなさいとか言ったことがない。そうした姿勢の根っこには、僕の母が五つのときに産みの母を亡くしていることがあるんじゃないかと思う。物心がつく前に大きな悲しみ、不条理を経験して、人生はままならないと知ってしまった。ところが、それによって悲観的になるのではなく、精一杯活動すれば、何かしらの縁がつながっていく。生きている間はそのことを楽しめばいいという、大まかでおおらかな人生観を母親のもとで、僕は育ったんじゃないかと」

— 途中略

「誰に頼まれたのではなく書き始めて二十年が経ちました。最近よく聞いている「純音楽家」遠藤賢司のCD「黎明期 LIVE！」の解説に湯浅学さんがこんな文章を寄せています。「昔の自分を恥じたり、悪く言ったりするやつは今のそいつも大したやつではない」エンケンはずっとそう言っていた——僕はこれを読んで涙が出そうになりました。エンケンが自分の過去の歌を聴き続けたように、僕も自分の書いたものと向き合って行きたいと思っています。自分自身に興味はないけれど、自分がいる場所、自分とかかわる人たちには興味がある。創作意欲は衰えていないようなので、次の作品を期待してください」

文芸誌「すばる」1月号 インタビューより

フレイフレイ台中

卓球部 1年生3校合同試合

男子優勝 伊藤 大護 男子準優勝 田中 天虎

女子優勝 勝俣 由衣 女子準優勝 永作 和暖

美術科 茅ヶ崎市教育委員会表彰

ゴミゼロクリーンポスター

前 咲希

国語科

緑化運動・育樹運動標語コンクール銅賞

根津 遼馬